早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	成田　めぐみ　　（　なりた　めぐみ　）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年　10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 48 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	成田めぐみ
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	ソーシャルスキルの獲得の程度を予測する認知行動的特徴の検討

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【目的】

他者視点取得，親和動機，セルフモニタリングは，ソーシャルスキルに影響を及ぼすことが考えられるものの，具体的にこれらの変数がどのように影響を及ぼすかは実証的に明らかにされていない。そこで，他者視点取得，親和動機，セルフモニタリングがソーシャルスキルの獲得に及ぼす影響について検討する。

【方法】

調査対象者　4 年制私立大学大学生 156 名（男子 71 名，女子 84 名，その他 1 名，平均年齢 21.08±1.39 歳）のデータを分析対象とした。

調査材料　(a)デモグラフィック：年齢，性別，(b)他者視点取得：多次元共感性尺度（鈴木・木野，2008），(c)ソーシャルスキル：成人用ソーシャルスキル自己評定尺度（相川・藤田，2005），(d)親和動機：親和動機測定尺度（岡島，1988），(e)セルフモニタリング：セルフ・モニタリング尺度（岩淵他，1982）

倫理的配慮　本研究は早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された（承認番号：2021-258）。

【結果・考察】

本研究の目的は，他者視点取得，親和動機，セルフモニタリングがソーシャルスキルの獲得の程度に及ぼす影響について検討することであった。本研究の結果，他者と人間関係を維持したいという動機が高く，自分の認知行動的特徴を理解できている状態において，他者視点取得の程度が高いとソーシャルスキルの獲得の程度も高くなるという中程度の関連性が確認された。以上のことから，他者視点取得の程度が低い者を対象としてソーシャルスキルの獲得を促す支援を行った場合，親和動機やセルフモニタリングの程度が低いことによって，その効果が十分に得られない可能性が考えられる。したがって，今後は，この点を補うために，他者視点取得を向上させる手続きに加えて，親和動機やセルフモニタリングを向上させる手続きを実施する必要性が示唆された。

※無断転載禁止